

知識を伝える教育は過去のもの

教育のつどい
2021

山極壽一
全体会講演

教育の原点とは何か

教育研究全国集会 2021が8月19日(22日オンライン)で開かれました。開会全体集会で行われた山極壽一総合地球環境学研究所所長の講演「教育の原点とは何か」―「現代の教育」の部分を紹介し

ます。人間は過去の積み重ねによってだけ出来ていない。創造的で0から1を生み出すことが出来る。AIには分析できない地味がある。知識を伝える教育は過去のもの。知識はインターネットのなかにある。情報を得るために子どもたちは学校に来るわけではない。未知の世界がどうなるのかを皆と話し合うために来る。教員から考える方法を教えてもらうために来る。だから実験とかフィールドワークが重要になる。対面して考えていることを情緒と一緒に出す。そこで必要なのは共感力。我々が何百万年をかけて培ってきた共感力。それは社会力に繋がっている。

コロナ後の社会は消費経済ではなく、お金で生活をつくるのではなく、交換、贈与経済。シェアリング(物を分かち合い、繋がりが合う)とコマONS(公共財)を増やすことが必要。学校とは公共財、教育とは贈与。一旦与えて見返りを求めるものではない。自分の不利益を承知で相手に与えるのが教育。学校が直接的な利益を求めてはいけない。利益を求めない。利益を求めない場所ではないからコミュニティになる。そのコミュニティが社会や世界に開かれる。閉鎖的で利益共同体になってはいけない。贈与であることを念頭にこれからの教育をつくっていく。かなければならぬ。

要なのは共感力。我々が何百万年をかけて培ってきた共感力。それは社会力に繋がっている。コロナ後の社会は消費経済ではなく、お金で生活をつくるのではなく、交換、贈与経済。シェアリング(物を分かち合い、繋がりが合う)とコマONS(公共財)を増やすことが必要。学校とは公共財、教育とは贈与。一旦与えて見返りを求めるものではない。自分の不利益を承知で相手に与えるのが教育。学校が直接的な利益を求めてはいけない。利益を求めない。利益を求めない場所ではないからコミュニティになる。そのコミュニティが社会や世界に開かれる。閉鎖的で利益共同体になってはいけない。贈与であることを念頭にこれからの教育をつくっていく。かなければならぬ。



山極壽一先生の講演の様子。

市対連 競争・テスト至上主義 維新の教育終わらせる

大阪市対策連絡会 議は8月27日、「維新政治を終わらせろ」を掲げ、総会&学習講演会を行いました。小野田正利大阪大学名誉教授が、「その場の怒りの感情と思いつき」はもうやめませんか! 「維新の会」の首長たちの教育施策、を講演しました。(以下要旨)

都構想で4つの特別区になっていたら学校施設整備や教員採用でスケールメリットがなくなり職員不足で機能不全に。都構想は「成長戦略」ではなく「破壊戦略」だった。「雨合羽」「インソンの会」の教訓が生かされず「オンライン授業」。いきなりの指示に学校現場と各家庭は混乱した。木川南小久保校長は、近年の大阪における「競争主義」「テスト至上主義」の弊害を指摘。大阪市の中学3年生は、「年間21日以上はテスト」という異常さ。各学校の従来のやり方に国策、府策、市策のテストが「上から降ってきた」。教師も生徒もまさしく「テスト漬け」と形容できる。愚策によって学校生活が蹂躪され、学校がテストマシーンになってしまい、大事な学びと多様な体験活動となる期間(機会)が、成績による

ラベリングの場になり、興味を膨らませる場所にならなくなっている。松井市長と吉村知事の学校教育に関する言動と施策の特徴は、「定見と見通しがない」まま、その場・その時点での「感覚的おもいつき」を「パフォーマンス的」に繰り返している、としか言いようがない。かつて橋下徹知事(市長)の施策を「破壊のエクスタシー」と形容したが今でも間違っていない。アドバランを極

限まで掲げ、世論の反応を見ながらスルスルと適度なところまで下ろしていく手法は、恐怖を覚える。すべてが橋下市長(当時)の胸三寸で決まる。「ご都合主義」の一貫プログラムの中に、新自由主義的路線が色濃くある。その周りに多様な思想をもった人々が群がっている。

マルかじり学習 自分に思った事に口に出せない、市のお世辞環境や押しつけによって現場が振り回され間違っていると言わなかった方向に傾いていることが子どもたちの成長を妨げ自己肯定感を奪う根源だと改めて感じました。

また1学期の取り組みを交流し、新たな発見があり、自分の取組と同じ意見や内容が出た時はすごく嬉しく安心しました。2学期に向けてのアドバイスも聞けて活力になりました。どの方にも

共通していたことは、子どもが中心となる取組や実践が必ず入っていたことです。やはり子どもが主役、子どもが輝く教室が1番素敵だと思いました。

特別支援教育 学級・職場づくり 紹介され、障害児学級で育つ姿にふれることが出来ました。また、障害児学級での実践が往々にして蔑ろにされる中、組合の仲間と手を取り合って「石の上にも3年」職場づくり、障害児学級づくりを進めてきた経験を聞くことができました。



人事院 勸告 一時金引き下げ0・15月 不妊治療休暇の新設

人事院は8月10日、国家公務員の給与に関する勸告と人事管理に関する報告を行いました。月例給は改定を行わない、一時金は、期末手当を0・15月引き下げる(年間4・3月とする)。これに

よって平均年間給与(行一)が6・2万円下がることになり。再任用の一時金は0・1月引き下げ。新型コロナウイルス感染症の対応等で奮闘している職員の労苦、生活実態に目

を向けないもので。月例給マイナスの懸念もありました。改定無しは全労連等が粘り強く交渉を積み重ね、少なくとも5日くわえた範囲内とし、休暇の単位は1日または1時間。市労組連交渉を強化します。

公務労組連絡会の重点課題のひとつとして追及してきた不妊治療のための休暇(有給)が新設されることになりました。休暇の期間は原則として5日、体外受精や顕微授精等の頻繁な通院が必要とされる場合は、さらに5日くわえた範囲内とし、休暇の単位は1日または1時間。市労組連交渉を強化します。



大阪市を良くする教育懇談会を促進するための会議を開き、大阪市教育委員会が「問題提起」を行い、生野区学校統廃合を考える会、子育てと教育を考える西淀川ネット

ワーク、旭区緑橋集会所で行われた市退教の集い、新婦人府本部の取り組みが報告されました。宮城委員長は、大阪市の「オンライン授業」4週間は、登校制限で「学び」を奪った「不当な支配」(教育基本法)と振り返り、デジタルドリル運用開始で教育内容の民営化が進められようとしている実態を報告しました。生野区では7月に緊急要望書、公開質問状を提出し、取り組みを生野区全域に

広がります。西淀川では大阪市教育青年部が5月、7月に参加し、「コロナ禍の中で大事にしたいもの」を話し合いました。よくする会シンポジウム(7月11日)に参加した市退教会員が集い呼びかけました。新婦人はグループホーム・タブレットアンケートで当事者の声を聴く、学校教育についての「おしゃべり会」に取り組みました。対話を広げ市民と一緒に選挙を戦いたいと述べました。

お話では、就学前から卒業まで6年間関わった子の成長・発達の様子について

参加者感想から ○実践にふれて、プリントをこなすだけでなく、子どもの生活に沿って実践を広げていきたい。前向きになれました。 ○子どもの立場、子どもの視線を考え、その子を伸ばしていく事を考えて実践していきたいです。 ○大島先生の職場づくりの実践に元気が出ました。

よくする会

教育懇談会を全市で 西淀川、新婦人：交流

大阪市を良くする教育懇談会を促進するための会議を開き、大阪市教育委員会が「問題提起」を行い、生野区学校統廃合を考える会、子育てと教育を考える西淀川ネット

ワーク、旭区緑橋集会所で行われた市退教の集い、新婦人府本部の取り組みが報告されました。宮城委員長は、大阪市の「オンライン授業」4週間は、登校制限で「学び」を奪った「不当な支配」(教育基本法)と振り返り、デジタルドリル運用開始で教育内容の民営化が進められようとしている実態を報告しました。生野区では7月に緊急要望書、公開質問状を提出し、取り組みを生野区全域に

広がります。西淀川では大阪市教育青年部が5月、7月に参加し、「コロナ禍の中で大事にしたいもの」を話し合いました。よくする会シンポジウム(7月11日)に参加した市退教会員が集い呼びかけました。新婦人はグループホーム・タブレットアンケートで当事者の声を聴く、学校教育についての「おしゃべり会」に取り組みました。対話を広げ市民と一緒に選挙を戦いたいと述べました。

お話では、就学前から卒業まで6年間関わった子の成長・発達の様子について

参加者感想から ○実践にふれて、プリントをこなすだけでなく、子どもの生活に沿って実践を広げていきたい。前向きになれました。 ○子どもの立場、子どもの視線を考え、その子を伸ばしていく事を考えて実践していきたいです。 ○大島先生の職場づくりの実践に元気が出ました。

参加者感想から ○実践にふれて、プリントをこなすだけでなく、子どもの生活に沿って実践を広げていきたい。前向きになれました。 ○子どもの立場、子どもの視線を考え、その子を伸ばしていく事を考えて実践していきたいです。 ○大島先生の職場づくりの実践に元気が出ました。